

## 関先生の藤原賞ご受賞を祝して

私共の恩師でもある関集三先生が、このたび「状態変化の構造熱力学的研究」に対する業績によって藤原賞を受賞されたことは誠に喜ばしい限りであります。僭越ながら本学会員一同を代表して、今回のご受賞を心よりお祝い申し上げます。

ご承知のように藤原賞は藤原科学技術財団が、我国の科学技術の発展に卓抜した業績を挙げた自然科学者に贈る民間最高の賞で、今年で24回目を数える。同時受賞者の東京医科歯科大学萬年甫教授と共に、賞贈呈式は1983年6月17日、東京丸の内日本工業倶楽部において行われた。会長代理としての藤枝庶務幹事と私が熱測定学会を代表してこの式に参列し、関先生に直接お祝いを申し上げる機会に恵まれた。式の始めに選考委員長の選考経過報告と業績紹介があり、我国の化学熱力学の分野を開拓して国際的に第一級レベルに発展させるにあたって果された指導的役割が高く評価された。つづいて総理大臣、文部大臣、科学技術庁長官、日本学術会議会長からの祝詞があり、相転移の研究や種々のガラス状態の発見などのユニークな業績の他に、熱測定学会の誕生と発展に尽くされた関先生の貢献にも讃詞が贈られた。

関研究室での熱測定が本格化したのは昭和33年、大阪大学理学部に極低温実験室が開設されてからである。我国で第5番目に液体ヘリウムや液体水素の使用が可能となり、同時にそれまで貴重品扱いだった液体窒素がふんだんに使用できるようになった。また、永宮健夫教授(現関西学院大学理事)のお計らいで、白金抵抗温度計とミュラーブリッジの購入が認められ、広い温度領域にわたって国際実用温度目盛の実現が可能となったためでもある。これが本格的な第三法則エントロピーの決定を可能にし、より高い精度、より高い確度への追求が「ガラス性結晶」、その他の発見へとつながったのである。関先生の受賞挨拶の中でもこの点にふれられ、永宮先生の暖かいご配慮に対して心からの謝辞が述べられた。それを耳にしながら、20年以上も昔になった当時のことが鮮明に甦った。物理教室の人達と一緒に液化器の整備に当たった日々のこと、始めて液体ヘリウムを見た瞬間の感



激、開所式での液体ヘリウム噴水効果のデモンストレーション、小人数ではあったが研究室の建設期の困苦に心を一にして立ち向った当時のことが懐しく思い起こされた。因みにその時のミュラーブリッジ1号機は最新の交流ブリッジに第一線をゆずったものの、温度計較正用として活躍をつづけている。あれ以来、ダイヤルを何十方回廻し続けたであろうか。よく我々の酷使に耐えてくれたものである。

関先生は現在、関西学院大学理学部で「両親媒性物質と水の相互作用」について新しい研究分野の開拓をつづけておられる。学問に対する情熱はますます盛んで、つねづね私共弟子に無言の教えを与えられ、頭の下がる思いである。今後とも益々健康に心を配られ、熱測定学会の発展に叱咤激励を賜わりますよう心よりお願い申し上げます。

(大阪大学理学部化学教室 菅 宏)